



2019 第 2 回関東幼児&小学 1・2 年生どか点ティーボール大会

競技の約束について (2019. 11. 30)

1. 目的 どか点ティーボール大会を通して、幼児並びに小学 1・2 年生同士の交流と親睦を深め、心身の健全育成を図ることを目的とする。
2. 目標
 - (1) 笑顔いっぱいティーボールを体感すること。
 - (2) ティーボールを通して、打つ、走る、捕る、投げるという運動の基本動作を楽しく学ぶこと。
 - (3) 人との関わり方を学び、社会性を養うこと。
 - (4) 引率・大会運営者への「感謝」を学ぶこと。
3. 部門 幼児の部
小学 1・2 年生の部
4. チーム編成 7～9 名の選手と 2 名の保護者（または指導者）とする。
ただし、人数の少ないチームは会場にて混成チームを編成する。
5. 競技場（競技場図参照）
 - (1) 塁間の距離は、幼児 5m、小学 1・2 年生 10m とする。
 - (2) 塁はベースとする。ただし、触塁はしないで内野ラインと外野ラインの間を走る。
 - (3) 本塁、バッターズサークル（安全確保）は、本塁プレートを基点の半径 1.5m に円を描くようにラインを引く。
 - (4) 本塁は、本塁プレート上またはその位置に置いたバッティングコーンとする。
 - (5) 本塁での得点は、バッターズサークルに打者が入ったときに得点とする。
 - (6) ① 守備ラインは、一塁三塁と本塁二塁を結ぶ対角線が交わる点を中心とし、一塁の 1m（幼児用）、1m（小学生 1・2 年生用）延長した地点から、三塁の 1m（幼児用、本塁から 6m）、1m（小学生 1・2 年生用、本塁から 11m）延長した地点まで円を描くように引いたラインを「内野ライン」とする。内野手はこの線上の所定の場所で打者が打つまで守る。
② 「外野ライン」は、内野ラインから 2m（幼児用、本塁から 8m）、4m（小学生 1・2 年生用、本塁から 15m）延長した一塁側から三塁側まで、円を描くように引いたラインとする。外野手はこの線上の場所で打者が打つまで守る。
主催者は守備の目安をマークしても良い。
③ ホームランラインは引かない。打者はボールが本塁手へ返球されない場合には、一塁二塁三塁へと回り、本塁を過ぎてもまた一塁二塁三塁へと回る。その都度得点が加算される。
 - (7) バッティングコーン後方 4～5m に打者チームベンチとして安全ラインを引く。

6.約束

- (1)打者は、思いきりボールを打つ。三振アウト。
- (2)打者は、打った後、バットをフープかコーンの中に、原則として入れて走る。
- (3)打者走者は、塁ベース後方の打者走路をしっかりと全力で走る。
- (4)守備者は、打ったボールを捕るために動く。守備者は「わたし」「ぼく」と声を出して捕りに行く。
- (5)ボールを捕った選手は、本塁近くにいる保護者（または指導者）へ返球する。
- (6)保護者（または指導者）は、ボールをバッティングコーンの上に乗せる。ボールをバッティングコーンの上に乗せて、そのボールから手を離れたとき、打者の回った塁の数が得点となる。
- (7)指導者（ティーボールティーチャー）と打者チームの全員は、打者走者が一塁ベースを回ったら「1点」、二塁なら「2点」、三塁なら「3点」、本塁（バッターズサークル）を越えたなら「4点」、それでも返球されない場合には、2周目で一塁を回ったら「5点」と大きい声で打者走者の得点を数える。
- (8)打者チームの全選手は、本塁・バッティングコーン後方4mの打者チームベンチライン（安全ライン）後方で応援する。
- (9)内野手は4名～5名とする。外野手は3名～4名とする。
なお、守備選手は対戦チームと同数とする。

7.用具

- (1)ティーボールコーン（幼児用） バッティングティー（小学生用）
- (2)ティーボールバット（幼児用）、ティーボールバット（小学生用 SG-S）
- (3)ティーボール（オレンジ11インチ低反発）
- (4)フープかコーン（打者がバットを入れる）、
- (5)本塁プレート・塁ベース
- (6)用具は、日本ティーボール協会公認用具とする。

8.備考

試合球、用具、試合方法など、要望があれば指導者を派遣します。

参考： 競技場図

